

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和6年度	会計コード	10	一般会計	事業コード	38457		
事業名	父親による子育て推進費							
評価担当課	所属				電話番号	011-211-2997		
施策名	社会全体が、妊娠期を含めて子どもと子育てを支えています。また							
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外							
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費			○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理費				
	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助・助成 ○ その他							
事業内容	事業の背景(現在の状況、社会的課題)	子育ては、母親のみが担うものではなく、父親を含む家族全体、さらには地域社会が協力して取り組むべき重要な課題である。父親が自身のライフスタイルや特性を踏まえ、積極的に育児に参画する契機として、父子同室講座の受講を通じて意識の変容を促し、父母が協働して育児を担うことで、母親に偏りがちな負担の軽減と家庭の子育て力向上を図るものである。一方、令和5年度行政評価(外部評価)では、女性活躍・子育て支援事業に関し、部署間連携や共同実施、役割分担の明確化等により、分かりやすく効率的な予算執行を工夫するよう指摘がなされた。現在、事業の効果・課題を検証しつつ、関係部署と連携した共催や合同広報を通じて、従来届かなかった層への情報発信を行っている。						
	事業内容(何を実施し)	父親の積極的な育児参画を促進するため、父親の参加率が高い休日に、各区保育・子育て支援センターを会場として、家庭で実践可能なスキップや運動遊びの紹介、父親同士による育児情報の共有の機会を提供する父子同室講座を実施した。 ・各ちあふる(10か所)において父子同室講座を実施 ・ちあふる(2か所)において、冬季講座を実施 あわせて、従来は課内で実施していた啓発イベントについて、他部署が主催するイベント等に参画することで、より幅広い層への啓発を図った。						
	どのような状態にしたい(状態を維持したい)	父親の育児に対する意識の向上と啓発を図るとともに、父親が子どもとの関わり方を学び、積極的に関わる機会が増えることで、育児に取り組む機会の充実を促す。また、父親の主体的な育児参画が、母親の負担軽減や不安感の緩和にもつながり、家庭における子育て力の向上を図る。						
	他都市の状況	東京都豊島区では「ForPAPAプロジェクト」を展開し、父親の育児を「推進」から「支援」へと転換。父子手帳の配布、プレパパ向け講座、男性の育児環境調査などを実施父親向けの育児情報、イベント、地域の居場所情報などを発信。						
	市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外						
令和5年度決算額	2,620 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	0.45 人工			
令和6年度予算額	2,700 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	0.33 人工			
令和6年度決算額	1,426 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	0.33 人工			
令和7年度予算額	2,400 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	0.58 人工			
指標	アウトプット活動指標1	父親同室講座の参加組数(年間累計)			という活動、業務を行うことで			
		令和5年度実績	令和6年度予定	令和6年度実績	令和7年度予定	令和8年度予定	令和9年度予定	
			169	220	165	300	300	300
	アウトカム成果指標1	父子同室講座参加者の育児への行動変容が期待されるもの			という状態にしたい、成果を挙げたい			
		令和5年度実績	令和6年度予定	令和6年度実績	令和7年度予定	令和8年度予定	令和9年度予定	
			85%	90%	87%	90%	90%	90%
	指標1の評価、未達理由、今後の考え方		目標参加者数には達しなかったものの、対象年齢が乳幼児であるため、体調不良などを理由としたキャンセルが発生した。					
アウトプット活動指標2				という活動、業務を行うことで				
	令和5年度実績	令和6年度予定	令和6年度実績	令和7年度予定	令和8年度予定	令和9年度予定		
アウトカム成果指標2				という状態にしたい、成果を挙げたい				
	令和5年度実績	令和6年度予定	令和6年度実績	令和7年度予定	令和8年度予定	令和9年度予定		
指標2の評価、未達理由、今後の考え方								
今年度の見直し内容	現在、事業の効果・課題を検証しつつ、関係部署と連携した共催や合同広報を通じて、従来届かなかった層への情報発信を行っている。							
来年度以降の方向性	父子同室講座は好評であるが、より親子に近い立場である各区ちあふるが主体となって講座等の企画・運営を行うことで、地域の実情やニーズを的確に捉えた講座の開催が可能となるよう、検討を進めているところ。なお、引き続き他部署との連携も図りながら、より効果的な事業広報、運営を目指す。							